

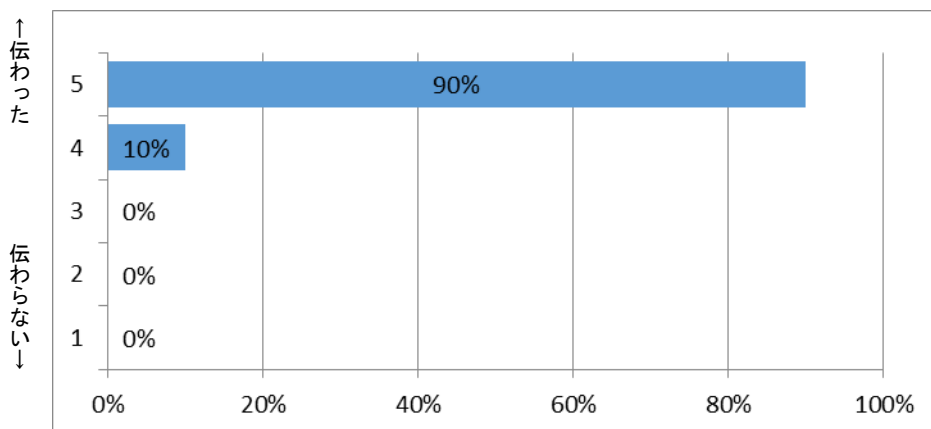
## ② 学校・主催者からの評価（アンケート調査結果）

多様性の理解…………… 98/100  
 共存共栄…………… 92/100  
 工夫や努力…………… 97/100  
 目標や夢…………… 94/100  
 パラキャンの訪問授業を体験したいか…… 20/20

評価数は、点数×人数の総計で行いました。 アンケートの返信数が 20 なので、  
 5 点×20 ヶ所=100 点を最大とし、  
 以下アンケート設問（22 校実施中 20 校より回答）

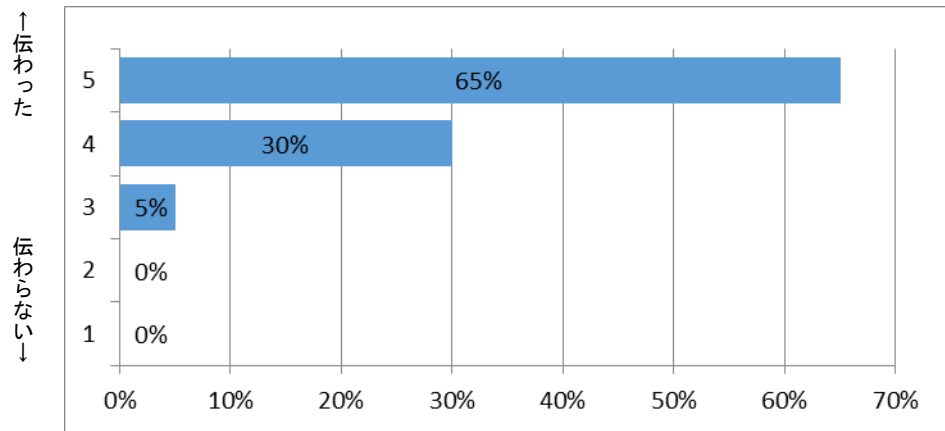
### 1. 児童・生徒に伝わったと思いますか？

#### ①多様性の理解（色々な人がいて初めて社会）



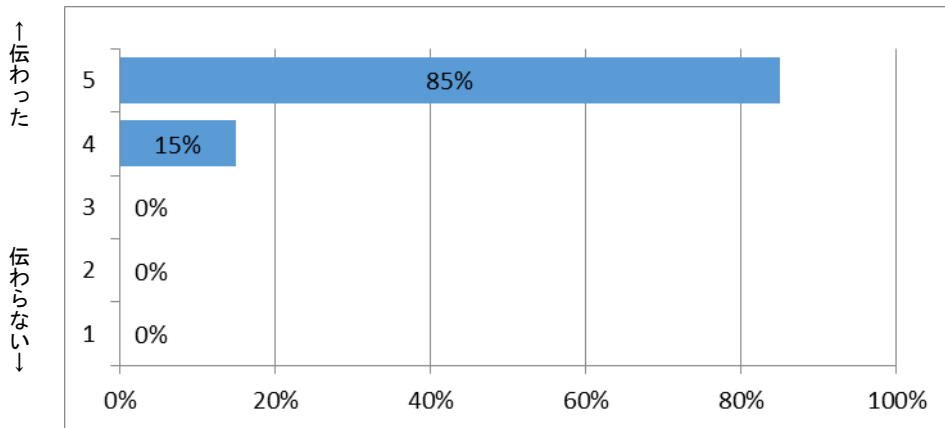
	←伝わらない					伝わった→				
	1	2	3	4	5					
多様性の理解	0	0	0	2	18					

②共存共栄（助け合い協力・強調する）



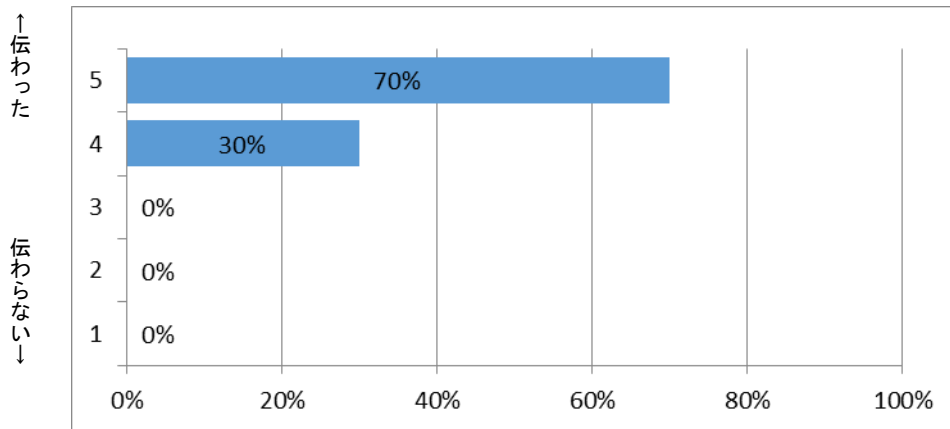
	←伝わらない			伝わった→	
	1	2	3	4	5
共存共栄	0	0	1	6	13

③工夫と努力（ちょっとした工夫や努力で可能性が広がる）



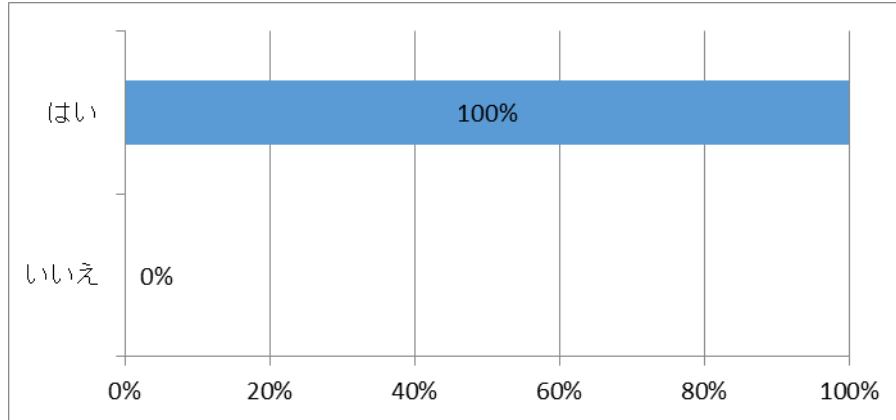
	←伝わらない			伝わった→	
	1	2	3	4	5
工夫と努力	0	0	0	3	17

④目標や夢（可能性に気づき目標や夢を持つ）



	←伝わらない			伝わった→	
	1	2	3	4	5
目標や夢	0	0	0	6	14

2. また、パラキャンの訪問授業を体験したいですか？



いいえ	はい
0	20

【はいの理由】

- 「出来ないことを数えるより、出来ることを数えよう」という合言葉を教えていただきました。3学期になっても、子ども達の支えとなっています。「分からない」「できない」「自分なんて」と悩む時期の子ども達に前向きな考えを姿で見せて頂ける素晴らしい体験会でした。今後の子ども達にとっても良い学びとなると考えます。

- この講座を通して「障害を持っている方に対する意識や自分の考え方が変わった」といい感想がたくさんありました。実際に講師の方が熱く真剣にお話しして下さり、その明るく前向きに生きる姿勢に心を動かされていました。
- この授業を機会に、パラリンピックに興味を持つようになったり、障がい者の方々への偏見も変わりフレンドリーで前向きな考え方を持っている姿を見て、自分もそうありたいと感想に書いていた生徒が多く有意義な授業で有ったと思いました。
- パラスポーツの感動を感じられたこと、更に、障がいや個人差があるにもかかわらず、自分にできることを生かして挑戦する素晴らしさを学ぶことが出来ました。
- 講師の先生のお話から、子ども達は自分に自信を持つと思った、や少しの工夫や努力の大切さがわかったという学びを得ることが出来ました。
- 講師の方の話をも真剣に聞く生徒の姿が印象深いです。道徳の授業をやっても生徒への伝わり方が全然違い指導を助けて頂きました。
- 講師の方々のお話が、小学生にとっても分かりやすく、また飽きさせない卓越した話術があり、心から感動しました。
- 子どもたちにパラアスリートの皆様に色々な話や体験をさせていただきとても勉強になったから。また、教員としても障がい教育について改めて考えそして新しく学ばせていただいたことがたくさんあったから。
- 子ども達が楽しそうに体験していて、普段できない場を作ることは大切だと思った。
- 子ども達にとって障がいがある方は、「かわいそう」「不便そう」「大変そう」と想像でネガティブな概念しかなかったのが、「すごい」「頑張ればいいんだな」「やれることをやっていきたい」とポジティブな思考が変わったこと。これは粉きのあ体験で得られたことだと思ったので、機会があれば、また是非お願いしたいです。
- 子ども達にとって有意義で無二の授業だから、
- 子ども達にとっても分かりやすい内容でした。時間がたっても記憶が鮮明なので良い経験になったと確信できる。
- 色々な人と関わることが出来ました。障害に対する思い込みをなくす機会になりました。
- 生徒が、この訪問授業を受けて良かったという感想を述べていた。とても良い内容だっと思います。
- 生徒たちは障害を持っているということを特別なこととしてではなく、共に楽しむことや生き方を学ぶことを体験できたから良かったと思います。
- 生徒にとって良い経験だと思った。
- 生徒達の頑張る気持ちが高まる。
- 体験することでまたお話を伺うことで、初めて自分に身近なこととして、引き付けて考えることが出来ると思う。耳で聞いて、目で見て、実際に体験し、様々な感覚を使うことで得られる実感は大きいと思う。
- 体験型の口座は大変効果的だと感じました。グループワークも取り入れ、内容もよかったです。

### 3. その他、感想や今後の要望、ご意見をお聞かせください。

- パラリンピックの精神である「できないことを数えるより、できることを数えよう」という心は全員、心に深く刻まれました。素晴らしい体験をありがとうございました。
- まなんだことを生かして、パラリンピックについて考え良い東京オリンピック・パラリンピックを迎えたいと思います。ありがとうございました。
- 学校施設に不備があり申し訳ありません。学校施設については事務局に伝えてあったと認識していたのですが、講師の方々には伝わっていなかったようです。
- 楽しんで学べた。ありがとうございました。
- 貴重な体験ができました。苦手なことも挑戦し、楽しむ大切さを学ぶことが出来ました。ありがとうございました。
- 義足を外して見せてくれたこと、その反応を受け止めて、子ども達に話してくれた内容がとても良かった。
- 講師ごとに分かれての懇談の際、声が聞き取りにくいことがありました。
- 今回は費用の面で特別に配慮していただき実施することが出来ました。ありがとうございました。
- 今回講師の先生達から、本当に貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。本人たちは目で見ていたものの、どう接して良いかわからない部分が多かったのですが、少しの人数でも関心をもって取り組もうとしていることは、とても大きな収穫だったと思います。
- 子どもたちに貴重な機会をありがとうございました。とても素敵な笑顔・真剣な表情たくさんのかたちを学ばせていただきました。
- 事前学習で使用できる資料などあったら嬉しいと思います。
- 実際に障がい者の方々と接し、見て、話を聞き、貴重な体験ができたと思っています。機会があればまた訪問授業を実施できたらと思っています。
- 車いすバスケットボールという子ども達の興味をひくものをつかかき、子ども達の概念や意識を変えるきっかけをありがとうございました。次年度より学校全体で福祉について学ぶことになっており、今後もぜひこのような機会を設けさせえて頂けると大変有難いです。
- 車いすバスケの体験で全ての子どもに体験させてあげたい。
- 障がいの有無以前に一人の人間としての生き方、考え方を教えて、また一緒に考えてくださり、子どもも教員もこれまでのそしてこれからの生き方を考えました。自分の力のなさ、語るべき人の語る偉大さを感じました。
- 費用面で難しい部分がありましたが、補助金を使用していたり、急な依頼にも迅速に対応して頂けて大変助かりました。
- 複雑な時期の子ども達にとって希望の光になる素晴らしい体験でした。担任一同、大変感謝しております。
- 良い体験となりました。ありがとうございました。

### ③ 分析

今年度も、無事22校の学校に於いて事業を展開することが出来ました。昨年とは違い、アンケートで何が伝わり何が伝わりにくかったのかが分かるようにしたので、伝えるにくい部分と伝えやすい部分が明確になったように思います。

多様性理解：100点中 98点と高評価されているので、比較的分かりやすかったのだと考えられます。また、障がい者＝ネガティブなイメージを持ちやすいと思いますが、それはこの事業により払拭されるあるいは、必ずしもそうではないということが分かってもらえたかと思います。

共存共栄：、100点中 92点で若干分かりにくい部分があったかと思います。なるべく子ども達が気付くように、色々な仕掛けをしているつもりですが、明確に提言してしまうほうが先生達にも分かりやすく良かったのかと思います。来年度の事業では、この部分は明確にしていきます。

工夫努力：100点中97点で、パラスポーツのルールや用具から様々な工夫や努力が見て取れるのがこの事業のポイントの一つでもあります。

夢や目標：100点中94点、障がい者=挫折、引きこもり、というイメージになりがちですが、小さな目標を少しずつ積み重ね、より大きな目標へ向かう講師たちの姿から、夢や目標を持つ大切さや希望をもって生きることの楽しさが伝わったと考えられます。

### ● 結論

この事業に於いて、大切なことの一つに『自分で気づく』があります。体験・対話・講話を通して、こちらが一方的に情報や考え方、定義を提供するのではなく、自分たちで考え発信し、それをさらに皆で考える時間として、より深い気づきに導いて行くことが出来ると考えプログラムを構成しています。

この事業を行う上で、ファシリテーターの力は非常に大きく、より深い理解へと導くための水先案内人ともいえます。ファシリテーターの良し悪しや、講師たちの意識、

若干の差こそあれ、全ての項目に於いて、90%以上の『伝わった』の評価を頂き、また、再訪希望が100%であることから、この事業の価値は高く評価されていると思います。同時に、学校では教えられないことや体験できないことを提供している事業で、これからも学校教育に求められる部分だと確信しています。

本事業のアピールポイントである、参加者が『見て、聞いて、試して、考え、確認する』は、学校から良いプログラムであったと評価されたと結論付けられます。同時に、目指す姿である、『一億総活躍社会の実現』という社会課題を解決する基となる、多様性の理解も得られたと言えます。一部の人たちのアイデアとしてこの姿があるのではなく、社会全体に、全ての人が活躍できる社会を創る、全ての人が違うから素晴らしい、という意識が定着するまで、この事業は子ども達に届け続けられなければいけないと思います。